



根源アセンションプロジェクト HAKU (hamu) SUN より、前回発進したコンテンツ

『氣多大社 & モーゼパーク』の続き。。。のような気がしている

今回の目的地は、“大野湊神社”です(^^) / 続編では？という根拠は、今のところありません(笑)

自身は2017年になって、3Dの仕事に限界を感じ、20年続けてきた会社を辞めました

その後一年半近く、真に自己が求めるもの=天職(ミッション)では？と感じる“アセンション”というテーマに

夢中で取り組み、とても充実した日々を過ごしましたが、無収入のままいつまでもいられる訳もなく

これまでとは全く違う業種を選び、契約社員として働きはじめました

職場は、自宅から車で5分程の場所にあったので、朝夕・時間的余裕があり

すごく有難かったのですが、今年5月、急に契約終了を告げられ、

ラッシュの時間帯に巻き込まれてしまう、少し遠い場所への移動となってしまったのでした！あじゃ~(^^)；

前置きが長くなりましたが、その新しい勤務地のすぐ傍にあったのが



おのおのみさと
みちびきの神“大野湊神社”です！

2012年に一度訪れているのですが、すっかり忘れてしまっていて

最近まで、まったく気づかないままでした

現地に出かけること(根源の光のポータルとなる事)、そして、その後のコンテンツ作成まで、全ての行程が

高次との、リアルタイムのコ・クリエーション(協働創造)であり

誰かの、何かの役に立つことが出来れば、最高に嬉しい！！という気持ちしかないので

後になって、あれっ？もしかして、自分が進化しているのでは？と思う事があります

自身のコンテンツの最後に記す、“皇美”という名前は

2016年になって、NMCAA メインファシリテーターである Ai 先生とのご相談、ご指導の中から

なんとな～く浮かんできた？ ホーリーネーム(呼び名)です

あまりにも仰々しい(地上セルフの中身がともなっていない！笑)ので、“善美”という

もう一つの神界名をいただき、アカデミーではそちらを使用してきました

名前は、ただの名前とも言えますが、言霊であり、住む世界(次元)を表すものでもあります

意味が全くわかっていない地上セルフは呑気なもので、いつの間にか文末に“皇美”と記していて、あれっ？

前回コンテンツでは、なんと！本文中に登場して(ここはこの名前が合うよねー、という感じ?)、自身がビックリ?!

根源母神(根源天照皇太神)に最も近い、その分御魂である自己の“御神体”の名前が“皇美”であり

その姿が、はじめて見えてきた?! (Ai 先生=根源のカーちゃんには見えていた?) そんな気がしています^^

宇宙規模の、女性性と男性性の統合・進化へのフォーカス!!

自分で言うのもなんですが、これはとてつもなく大きな意識の飛躍=大アセンション! ではないでしょうか?

自身の中今の思い(願い)を、誰に何と言われようと表明する!

これまでの人生でしてこなかった事をした! その現れであるような気がします

「決して魂にブレーキをかけるな！」

霧島の地で、はじめて明確に感じる事の出来た新 G(艦隊)から、自己の核心へと、

力強く、深く、響き渡る言霊 ——

誰かに迷惑がかかってしまうのでは…、失敗したらどうしよう…、という心のブレーキを外す!

新しい地球は“究極の愛”を核心とした、真・善・美の世界であり、

そうでないものは顕現(実現)しない! 大調和の中にしか生きられない! 安心していいのだと思います^^

大野湊神社は街なかに建っていますが、市指定天然記念物となっている“寺中の森”を社豪とし

一部は緑地公園としても整備されていて、自然環境にも恵まれた場所です



大きな第一鳥居は、交通量の多い交差点の真ん前に立ち、すぐ左手には警察署があります

一度訪れてみたのですが、元々の社殿はもっと海よりの場所にあったとされ

大野湊神社がここに至る経緯は、ちょっと複雑？ 私には頭の整理が必要(笑)と感じていました

とりあえず、ライオンズゲートが全開となるという 2021年8月8日

大きなエネルギーワークのチャンスでもあるような気がして、出かけてきました(^)/

“ライオンズゲート”とは、銀河の中心から地球へと降りてくる、膨大なエネルギーのゲートされ

自身の感覚としては、根源太陽の光が、銀河のセントラルサンを通り

地上へと降り注ぐ、黄金の光のシャワー？！

まるで、美と威厳に満ちた“百獣の王ライオン”の、光たなびく鬣たてがみのイメージです^^



川や草木の清々しさに癒されながら小橋を渡ると、第二鳥居が見えてきます

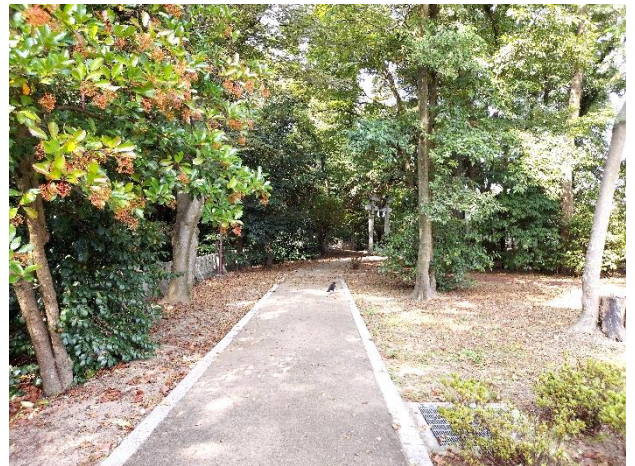




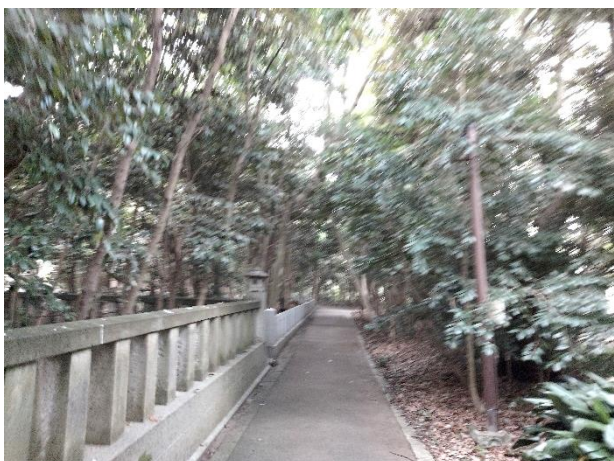
境内に渦巻くエネルギーを感じます



カラスさんもお散歩中??



第三鳥居



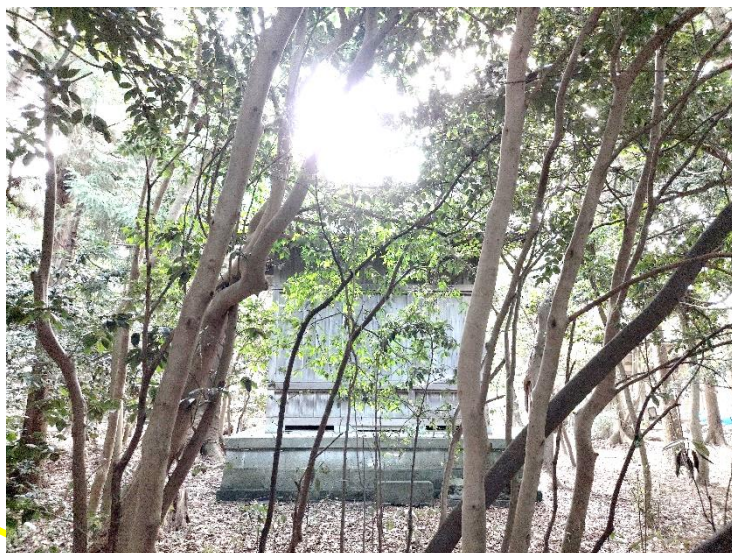
北神門

次元の回廊?と浮かびます

境内摂社“白山社”の裏側です

どこかで見た事があるような。。

伊勢外宮“多賀宮”？



境内脇をグルリと回り
拝殿が正面に見える場所へと
たどり着きました

絵馬堂



根源の愛と光

神馬舎



リアルですが
本物のお馬さんではありません

動き出す日がくるような。。^^



車で本殿へと直に向かうには、“隨身門”がある、こちらの入り口が近道ようです



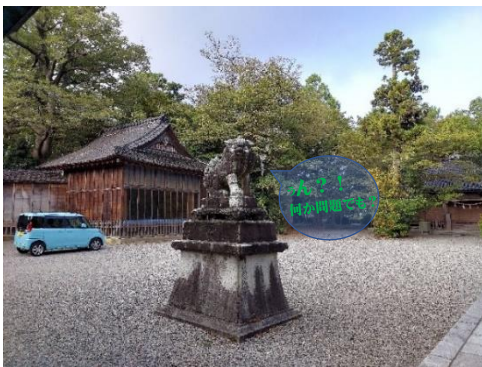
隨身とは、平安時代以降、上皇や摂関、大臣等、身分の高い貴族が外出する際に、警護の為に随従した近衛府の官人との事、隨身がいる神社を身近にしらないので、ちょっと緊張します(笑)

どのようなお姿なのか？横から覗き込んで撮らせていただきました^^ オー、ご立派！

田舎者なので隨身が珍しい、気になる…笑、でもありますが、神社の雰囲気が何となく他と違う気がしていたのは

隨身に、“神(界)”と“人”とをつないでいる中間的存在、“天界”を感じるからなのかもしれません

大野湊神社は、∞の次元が重なる、とてもスケールの大きな神社なのではないでしょうか



私の心の声が聞こえてる？ こちらの狛犬さんにもご挨拶を！^^

右手には、由緒碑と手水舎が

左手には能舞台があり、大野湊神社の神事能は、慶長9年(1604)二代藩主前田利長公の時代から続く

金沢市無形民俗文化財にも指定されている、大変貴重なものであるようです



右手に折れて進むと、拝殿が見えてきます

拜殿手前に、
中心からえぐり取られたかのような
なんとも痛ましい感じのする、木があったので
真ん中に光の柱を立て、支えてみました^^
元気(元の木)にな〜れ!♥



歴史を感じる、風化寸前?の狛犬さん



拜殿の向こう側に、三つの社殿が並んで建つようです



私がここに感じるのは、大海原——

大海原を切り開いて進む、偉大なパワーの象徴が、御祭神でもあり
大野湊神社が、導きの神“猿田彦大神”を第一に謡っている、理由であるような気がします
大海原とは、“大宇宙”の事でもあるのではないのでしょうか？

大野湊神社創建の経緯について、由緒書に記されている内容を整理してみたいと思います^^

まず、一番最初は、大野郷(旧宮腰、現金石町)と呼ばれる場所に

神明社(ご祭神…天照大神、創建は不詳)があり

その傍に、聖武天皇神亀4年(727年)、猿田彦大神を勧請し、大野郷の湊の守護神としたのがはじまりで

天照大神と猿田彦大神が合祀された時点から、“大野湊神社”と呼ばれるようになった

次に、後深草天皇建長4年(1252年)社殿が炎上し

離宮八幡宮(ご祭神…応神天皇)があった現在地に、移遷された

これらにより、神明社、猿田彦神社、八幡社が一つとなったものが、現在の大野湊神社で

その後(一向一揆により)荒廃したが、加賀藩主前田家によって再興され現在に至っている、との事です

この碑の中には出てきませんが、大野湊神社では“猿田彦大神”を祀る社を、“佐那武社”と呼んでいて

なぜそう呼ぶのか？その辺が、私の頭のゴチャゴチャ感の要因であるようです

大野湊神社さんホームページより、以下抜粋しました

大野湊神社は、神亀4年(727)陸奥の人、佐那(さな)が航海中に、猿田彦大神の出現を感じ、

海辺の大野庄真砂山おののしょう まさごやま竿林さのばやしに存していた神明社の傍らに、一祠を建立し

勧請したことをその創祀としている延喜式内社です。

この神明社、即ち天照坐皇大御神を奉斎した社の創立年代は不詳ですが、

おそらく飛鳥朝時代であると考えられています。

この猿田彦大神を合祀してより、天平元年(729)には天に達し、「佐那武大明神」の称号を賜りました。

しかし建長4年(1252)社殿が炎上したため、離宮八幡宮(現在の社地)に遷座されました。

大野湊神社創建のきっかけは“佐那”とされる人物にある？

“佐那神社”と呼ばれるものがあつた気がしてネット検索してみると、なんと、
氣多大社の境内社“楊田神社”でフォーカスした、あの“天手力男命”を祀る、三重県の神社でした

佐那神社について、神社本庁由緒書より

当神社には天手力男命を主神として、天宇受賣命など23柱祭神不詳2座をお祀りしています。

当社の創立年代は不詳ですが古事記に「次手力男神有坐佐那県也」と記載されており、また、延喜式内社であり、

当社のことを中宮と呼び、高大な樹木が生い茂っていたことから大森社などとも呼ばれて、

千有余年を経過した古社であることも明らかです。

また、神宮、特に外宮とは徳川時代初期に至るまで深いかかわりがありました。

即ち、神宮の宮造使によって、20年に一度の社殿造り替えに預かった12社中の1社であったこと、

齋宮の祈年祭にも預かれる神社であったこと、外宮祢宜の労社として祝の制を定め、神田を設け、

毎年2月神事が行なわれていたこと、などから分かります。

明治41年ここ佐那神社に村内各字の神社を合祀、昭和18年県社に列せられ、戦後宗教法人となっております。

天宇受賣命という名前が出てくることから、ようやく猿田彦大神につながつた気がしますが

大野湊神社さんホームページに、「佐那(さな)が航海中に、猿田彦大神の出現を感じ」とあることから、

“佐那”と“猿田彦大神”は、別の存在のように感じられるのですが…？

天手力男命は伊勢内宮に、“栲幡^{たくはたちちひのみこと}千千姫命”(瓊瓊杵尊の母)と共に、相殿神として祀られていることから

その夫とされる、“天忍穂耳尊”なのでは？と、なんとなく感じていました

“アマテラスとスサノオの誓約”の際に、アマテラスが身に着けていた玉から生まれた五皇子の長男ですが

天照大御神の孫である“瓊瓊杵尊”の陰に隠れて、あまりメジャーでない(笑) 気がします

“天手力男命”と“天忍穂耳尊”が異名同神(トンデモ?)とすれば、天の岩戸から天照大御神の御光を世に顕現した

大功労者であり、また天孫降臨の際にも随従したとあり、縁の下の力持ち的存在と言えるのではないのでしょうか？

天神七代(天地開闢に関わる七代の神々)に続き、神武天皇以前に日本を治めた五柱の神々とされる

地神五代(天照大神・天忍穂耳尊・瓊瓊杵尊・彦火々出見尊・鷓鷯草葺不合尊)の中で

私の意識から抜け落ちていた天忍穂耳尊が浮上し、歴史がつながっていく(統合されていく) 感じがします^^

正直、ネットで歴史の詳細について調べれば調べる程、様々な説が出てきて

何故かネガティブ(憂鬱)になっていく…(やる気がなくなっていく、笑) のですが、今それは必要か？ です

私はそれらの真偽を証明する為にあるのではなく、より楽しく、有意義な未来を生きる為にある！

新しい地球の未来を創造していく5次元人、神々の真の願いと一体化した神人となって行く！ です^^

私にとって、「陸奥の佐那」とは、みちのく(道の奥)からやってきた“天手力男命”であり

スサノオとアマテラスの間に生まれた、天忍穂耳尊でもあります！

天忍穂耳尊が、猿田彦大神と出会い、天照大神と合祀して誕生したのが“大野湊神社”

天照大神と瓊瓊杵尊によって成された、日本にとって、とても重要な意味を持つ“天孫降臨”につづいて

今度は、スサノオ率いる国津神が中心となって世界を立て直していく、“天子降臨”の時なのでは？！

これも神の経緯(各時代における統合計画、根源へのアセンションの一行程)の一つであり、

何故“天孫”なんだろう？と不思議に思っていた答えかもしれません^^

今浮かんだのが、“佐那”とは“サナート・クマラ”でもあった？！と

サナート・クマラは、人類の進化を司るアセンディッド・マスター、地球ハイラーキーの長とされます

天之御中主神(宇宙神)——国常立大神(地球神)——素戔嗚大神(地球神分神)

神界は創造の源であり、天界はその具体的働き、神の使者と言われ、その名前が“サナート・クマラ”！

中今、地球アセンション号を、大宇宙という大海原へと導く総合司令官です^^

アセンションとは、究極には、宇宙の一なる根源への回帰であり、あらゆる次元を統合して帰っていく道のり

サナート・クマラのハイアーセルフは、シリウス・ロゴスである“ヴァイワマス”とされ

シリウスは私にとって、地球から根源へと帰る中継点なのだと思います

それぞれの人々が、ディセンション(根源から分化、多様化)してきた宇宙史を、再び統合していく

そこには、地上セルフには想像もつかないほどのつながり、大きなネットワークがあり

それらすべての救済(カルマの解消)でもあり

根源がそのまま降りている“中今の奇蹟の地球”に、全てのDNAを背負って立つ、私達人にしか出来ない事！

今全宇宙から絶大なる応援、サポートの手が差し伸べられている、理由でもあるのではないのでしょうか？

大野湊神社の起点(核)は“神明社”であり、ご祭神は“天照皇大御神”、相殿神は“瀬織津姫”

(伊勢)神宮内宮、そのままの姿であるような気がします^^

私が感じる“瀬織津姫”は、女性性のはじまり、イヴであり、瀬織津姫の根源への回帰

= 究極の母性性である、“根源天照皇太神”との統合こそが、

全人類、全宇宙が目標とする“根源へのアセンション(回帰)”の雛形とも言えるのではないのでしょうか？

だから瀬織津姫はこれまで、大切に、秘め、守られてきた、そんな気がします

道開きの神とされる猿田彦大神は、日本人離れした、天狗のような風貌をしていたところから、

ユダヤ人？であるとか、キリスト？との説もあるようで

統合(アセンション)のリーダーシップをとる、様々な男性性の象徴のような存在なのかもしれません

猿田彦と天鈿女命(天宇受賣)、伊邪那岐と伊邪那美、饒速日と瀬織津姫、キリストとマリア、アダムとイヴ・・・

見る側によって何にでもなる、根源への確かな金字塔？！

「金字塔とは、エジプトのピラミッドを意味する言葉」とあり、まさにピラミッド(天界)の頂点

地球ハイラーキーの長、サナート・クマラでは？！^^

。。。。。

“佐那武”は、“佐良獄”という地名に関係がある？とも言われます

佐良嶽とは、現在の金沢市金石町あたり、犀川河口南岸にあったとされる砂丘地である。
大野湊神社はこの佐良嶽の麓、大野湊に元々鎮座していたが、度重なる嵐や大波で砂丘地が削られ、
神社は海中へ没したといわれる。（ウィキペディアより）

このため、佐良嶽明神とも言われるとの事、

なんだかだんだん、語呂合わせ、言葉遊びをしている(=言霊の世界?)ような気もしてきましたが…(笑)

ここから更に、白山さん(白山比咩神社)との思わぬつながりが見えてきました

大野湊神社の祭神と白山比咩神社の祭神は重ならないが、加賀馬場白山宮の有力末社となっていた時期がある
(『白山之記』より)。 現在、境内末社として佐那武白山神社を祀るのは、その名残りである。

白山七社(中宮三社)の内の一つに、“佐羅(佐良)宮”(正式には佐羅早松神社)と呼ばれるものがあります

こちらも佐羅大明神とされ、大野湊神社の佐那武大明神と何か関係がありそうな…ですが、

ウィキペディアに書かれている内容がよく理解出来ず、こんがらがったまま(^; だったので、一旦保留としました
自身にとってコンテンツの作成・発進は、エネルギーの雛形創りであり、ゴールではなく、ここがはじまりとも言えます

後に気になって、白山さんホームページの中にある、「白山社巡り」(142)のコーナーを開いてみると、

佐羅早松神社祭神は、“天忍穂耳尊・菊理姫命”となっていてビックリ?!

白山比咩大神からの、何かのメッセージのような気がして8月21日、早速出かけてきました!^^

(この部分は追記、続きの続き? 笑、となります^^)

今回も一抹の不安が。。。やっぱり!で、山道を徒歩で登らなくてはならないようです

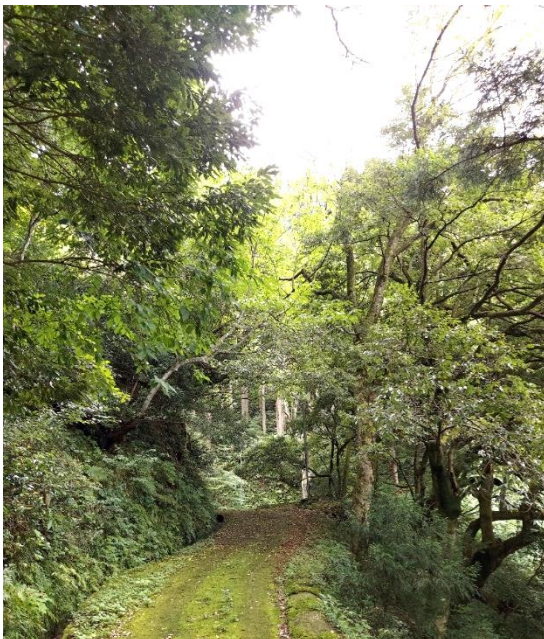
青々とした、おいしそうな栗のイガイガがいくつも転がっていて、轟々とした川音が聞こえてきます

(餌と水、熊さんにとっては絶好のロケーションです(*_*) 最近、猿さんも加わったとかで…、えっ、猿? スサノオとサルタヒコ?!)

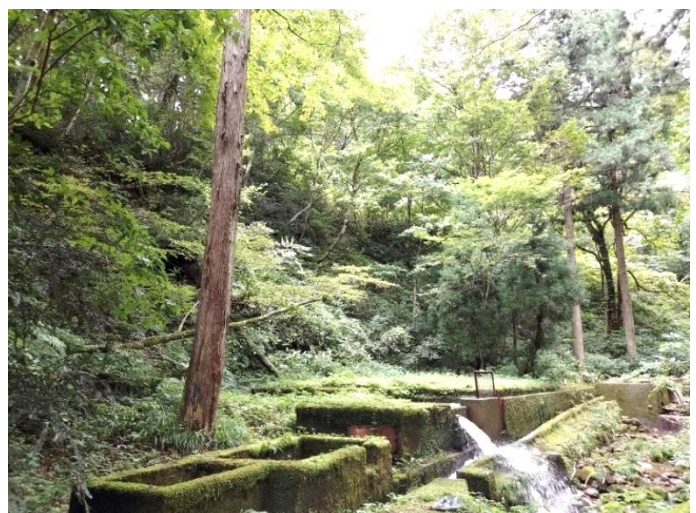
人影が全くない淋しい山道を、ドキドキしながら登っていくと、「えー、こんな所に、こんな世界が?」と驚く程の

見てはいけないものを見てしまったような…、圧倒的の神聖を感じ、もっとドッキリ!

あらためて、“神”とは、神社(社殿)ではなく、自然そのものだった!という強烈な思いが、蘇ってきました



何でもない、当たり前のもの——
ただ、見ようとしていなかっただけ…、
長い間忘れていただけ…、そんな気がしてきました





まるで遠心分離機の中？にいるかのような、このエネルギー世界に、

人はどうして、バラバラにならないで立っていられるのか？ 考えてみると不思議です

“肉体”の次元が、3次元と呼ばれる、通常の景色？の次元、振動数が低い、静止画のような世界であり

“意識”の次元が、4次元以上の、振動数の高い、目の回るような流動的世界

携帯カメラを通して、その両方を見ている自分とは何なんだろう？です

どれもが真実であり、自身の全て(肉体の五官を使つての互換=五感と、それを超える六感以上の感覚)で感じ、

表現し、伝える事が、地球に来た私のやりたかった事でもあり、中今のミッションなのでは？と思いました^^

鳥居と社殿が見えてきました



人が、自然につけた“神”という名の目印、シンボルでもあります

それはそれで、力強く、美しい！

人によって、神はその威を増す——、神と人との協働創造の素晴らしさではないでしょうか^^



私が今向かっているのは、木々の間を突き抜けた先にある、天の中心？！

“天之御中主大神”と浮かびました

熊対策?! 慌てて中に入りガラス戸をしっかりと閉めて(もしかして中にいるかも?), ロレツが回らないまま(笑)

天忍穂耳尊、大いなる神々、大自然に向かって、
地球維新、宇宙維新に臨む、感謝と決意を述べさせていただきました！！

菊理姫神社



横で静かに見守っていた存在が、“**根源の究極の愛の太陽**”に、全てを括る“**菊理姫**”!? ^^

NMCの核心である“**根源天照皇太神**”と、これまでの宇宙の核心であった“**天之御中主大神**”

その統合、更なる進化が、この地球を中心としてはじまっている！！

ここまできて、一連の流れ(菊理姫の経綸)の第一弾完了！なのかもしれません^^ (まだ第一弾ですが。。。)

(“中今”=自身のコンテンツには、過去も未来も同時に、今ここにあり、∞に進化します！ 追記終了^^)

。。。。。

大野湊神社境内には、春日社、西宮社、白山社、荒魂社の4つの境内社があり、

今回フォーカスされたのが、“**白山社**”でした



どの社なのか知らずに近づいていったのですが、独特のパワーを感じ、やっぱり！



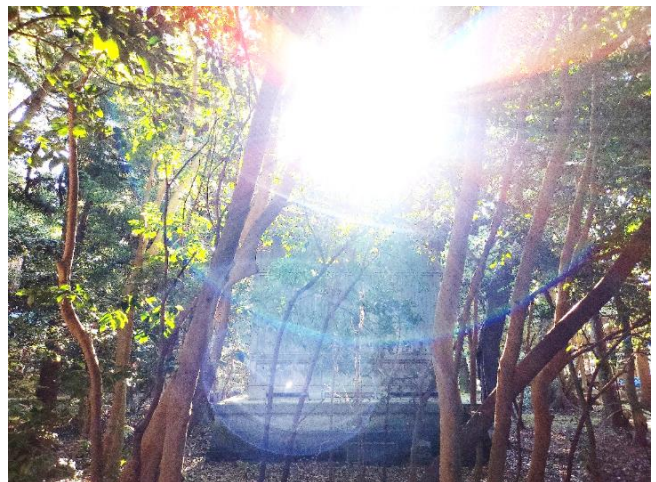
木漏れ日によって描きだされた細やかな模様がステキで、なんとなく西洋の神殿が連想されます^^



燃え上がる炎の神殿?! “昇天”のイメージ——

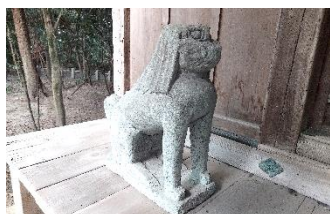
そのまま陽の光に溶け込んで、消えてしまいそうな気がします

アセンション=“キリストの昇天”とも言われます^^



裏側から見る社殿も、フトン(球体の光、神界)と微妙な色合いの美しい光線(天界)がミックスされた感じで、とても神聖です

あらっ？柱の陰になっていて気付かなかった、小さな狛犬さん。。。



クレオパトラのような、スフィンクスのような、初めて見る、不思議な姿をしています

“白山狛犬”と呼ばれるもので、白山信仰と関わりが深い、白山麓特有のものであるようです

クレオパトラ(7世、起源前50年頃)は、才色兼備で知られるエジプト王朝最後の女王とされますが、

クレオパトラより遙か昔に存在したと言われる、“ハトシェプスト女王”の事が浮かんできました^^

古代エジプト第18王朝第5代(前1450年頃)ファラオとされ

軍事力によって国を治めるのではなく、平和的外交手腕や、優れた建築物を生み出す才知を持ち
美と平和を愛する心、まさに女性性のパワーによって、エジプトを繁栄へと導いた、偉大なる女王であったようです

古代エジプトにおいて、百獣の王ライオンは聖獣とみなされ、その姿を模した“スフィンクス”は

ファラオの守護神として、王座や墓所の回りに置かれていたようで

そのスフィンクスが、インド、中国を経由して、日本へと伝えられたものが、狛犬ではないと言われるそうです

私が、8月8日“ライオンズゲート”を象徴する日に、ここに来よう！と思ったのは、

もしかしたら、スフィンクス＝狛犬さんの導きだったのかもしれない^^

古代エジプトやマヤ文明では、ライオンズゲートは“惑星の新年”と呼ばれる、重要な節目であるとの事です

当時のエジプトでは、ファラオ(王)は男性になるものと決まっていた、ハトシェプスト女王は

幼少であった“トメス3世”の摂政のような立場としてありましたが、次第に力を増し、共同統治者となって

公の場へは、付け髭をつけ、男装をして臨んだとされます

ここで、「白山社が伊勢外宮、多賀宮と似ているのでは？」と思った理由がわかりました

私にとって、外宮大神(豊受大御神荒魂)は、勇猛果敢な武将の仮面をかぶった、“女・蘭陵王”

長い間女性である事(女性性)を隠し、戦い続けてきた愛の戦士！ピッタリ重なります！^^

ハトシェプストとは「最も高貴なる女性」の意味で、即位名は マアトカラー「真実とラー神の魂」とされ

「出エジプト記」で、モーゼをナイル川で拾って育てた義母とは、ハトシェプスト女王の事だった？とあり、ビックリ！？

モーゼは、ハトシェプスト女王によって育てられた。。。事実かどうかはわかりませんが、単なる偶然とは思えません

前回コンテンツの続きでは？と感じた理由につながってきた気がします

モーゼ(ユダヤ)、そしてハトシェプスト女王、その先にあるものが見えてきたからです

前回コンテンツの最後に登場した“新G”(UFO)とは、

日本(東洋)とユダヤ(西洋)、神界(神々、マルテン)と天界(マスター方、マルジュウ)が統合された姿であり

“根源天照皇太神”を核とした マルテンジュウ=NMC(新マクロ宇宙)創成システムです

マルテンジュウとは、全てが統合された“神人”(ミクロ宇宙)の事でもあります^^



白山は、一なる至高の根源、究極の愛の太陽“根源天照皇太神”へとつながる母性の山です

古代エジプト神話における最高神、宇宙創造神とされるのは、太陽の化身“ラー”であり、
エジプト王としての即位名を「真実とラー神の魂」と名乗ったハトシェプスト女王は、太陽神ラーを通して
根源の太陽(根源天照皇太神)とつながっていたのではないのでしょうか

すべてが、根源(太陽)へと帰っていく——

モーゼが故郷日本へと帰ってきたように、もしかしたら、ハトシェプスト女王も白山へと帰ってきたのでは?!

白山狛犬は、女王をずっと護っていたのかもしれませんが… かわいやなー(。)

今年4月にエジプトでは、ハトシェプスト女王も含めた、古代エジプト王ミイラの
新博物館への大移動があり、私もその映像をネットで目にし、何故かワクワクしたのを思い出しました
ハトシェプスト女王復活?! 愛と平和の“アクエリアス時代”到来の予感?!

あら? 大野湊神社の白山社には女性性の象徴である、“伊邪那美命”も“菊理姫”の名前もありません?!

何故かしら。。。? 時間が止まっているような…、なんだか寂しい気がします

でも、だから今、私がニニに来た(呼ばれた)のでは?!



“歩く光の神殿”=ライトワーカーであり、私の新しいお仕事? でもあります(^)v

2021.8.15(8.22追記版) 永遠の愛と光の中で 皇美(善美 rumines)